

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年11月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0572104297
法人名	社会福祉法人 比内ふくし会
事業所名	扇寿苑グループホーム
所在地	大館市比内町扇田字中山川原56-7 (電話)0186-45-4177
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成21年10月30日

【情報提供票より】(H21年10月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 11年12月6日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	15人 常勤14人, 非常勤1人, 常勤換算 14.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋・木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	650円/1日、815円/1日	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900円	

(4) 利用者の概要(10月9日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	1名	要介護2		5名	
要介護3	10名	要介護4		2名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 84.5歳	最低	70歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大館市立扇田病院 神成歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は法人の本体施設(特別養護老人ホーム)の敷地内に立地している。近くには協力医療機関である総合病院や薬局があり、特に薬局の薬剤師とは薬を一包化してもらったり、感染症予防等の健康管理に関するアドバイスをいただくなど、日常的に連携できる体制にある。事業所は2ユニットで、それぞれに木製の家具や調度品が整えられているほか、共有スペースには利用者が作った手芸品や行事の際の写真等が飾られており、暖かい雰囲気を醸し出している。また、事業所全体の運営理念のほかに、ユニットごとに職員が話し合い「自尊心を大切に、楽しく暮らしていただく」「今の時間を大切に、穏やかに楽しく暮らしていただく」といった独自の理念を定め、日々の支援

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では特に改善点として挙げられた項目はない。今後も引き続き、より質の高いサービス提供に向け、事業所として取り組んでいくことが期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はユニット単位で行っている。職員全員が項目を分担して作成した後、会議を開いて意見を集約し、取りまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2か月に1回の頻度で開催されている。利用者の家族や市の担当者、地域の第三者委員等が参加している。委員からの提案に基づき、ボランティアの受け入れや「昔遊び」の導入など、会議の内容を活かした取り組みも行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	各ユニットの玄関には苦情受付箱が設置されている。直接家族から支援に関わる要望があり、職員が直接家族のところへ出向いて事情等を説明するとともに、サービスの改善につなげたという事例がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事、町内の草取り、小学校への訪問等を通じて地域との交流に努めている。更に、職員3名が県の推進する「認知症キャラバンメイト」に登録し、地域住民向けに認知症の講座を開くといった取り組みも進めている。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として、利用者に「家で過ごしていた時と同じような形で」「本人に合ったペースで」「地域の一員として」過ごしていただけるようなサービスを目指している。また、ユニットごとに職員が話し合い、「(利用者の)自尊心を大切に、楽しく暮らしていただく」といった独自の理念を定め、事業所内に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニットごとの理念は、職員が話し合いながら定期的に表現を変えるなど、職員同士で意識を共有できるような取り組みを行っている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や、町内の草取り等の活動に参加しているほか、地域の小学校の学習発表会や「みんなの登校日」といった行事に合わせて小学校を訪問するなど、交流に努めている。更に、職員3名が県の推進する「認知症キャラバンメイト」に登録し、地域住民向けに認知症の講座を開くといった取り組みも進めている。		「認知症キャラバンメイト」に関わる活動は、地域包括支援センターや同法人のグループホームと連携して行っているが、今後は事業所単独でも行っていく意向がある。事業所の情報を地域に積極的に発信していく優れた取り組みであり、今後も継続的に活動していくことが期待される。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニット単位で行っている。職員全員が項目を分担して作成した後、会議を開いて意見を集約し、取りまとめている。		会議を通じて職員の「気づき」が生まれたり、「地域に積極的に出て行こう」という課題が見えたことから、町に古くからある朝市に利用者とはかけるなど、自己評価の結果を具体的な実践につなげている。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2か月に1回の頻度で開催されている。利用者の家族や市の担当者、地域の第三者委員等が参加し、意見の提案等が行われている。11月には事業所の「たんぼ会」という手作りきりたんぼを楽しむ行事に合わせて会議を行う予定である。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者とは、要介護認定の更新申請代行等の事務手続きや制度上の疑問点等について、いつでも気軽に相談できるような関係を築いている。</p>		
4.理念を实践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月手作りのホーム便りを発行して、身元引受人以外にも希望があれば利用者の子供や兄弟などにも送付している。また、第1ユニットでは個々の家族へ近況報告の手紙を添えている。利用者の預かり金については、家族の面会時に出納簿の確認とサインをいただいている。</p>		<p>利用者の預かり金については、例えば出納簿のコピーを毎月送付するなど、より定期的に家族へ出納状況を報告するような仕組みを作っていくことが期待される。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各ユニットの玄関には苦情受付箱が設置されている。受付箱を通じて意見等が寄せられたことはないが、直接家族から支援に関わる要望があり、職員が直接家族のところへ出向いて事情等を説明するとともに、サービスの改善につなげたという事例がある。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の他部署への異動は少ない。グループホーム内において、ユニット間の異動があった場合も、普段から職員が両ユニットを行き来していることから顔なじみの関係が築かれており、利用者への影響は殆ど見られない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内研修や事業所内研修は定期的を実施され、職員の質の向上に努めている。外部の研修については、管理者が研修案内を回覧しているが、法人全体の人数枠等もあり、参加の機会を確保することが困難な状況も見られる。		内部研修は積極的に実施されており、職員の意欲もあることから、今後は外部研修についても職員が参加しやすいよう、できるだけ機会の確保に努めることも期待される。
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	法人内の他のグループホームとは、キャラバンメイトや行事への参加等を通じて交流する機会を設けている。今後も引き続き、他法人の同業者との交流も視野に入れながら取り組みを継続していくことも期待される。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	入居希望者には事前に見学の機会を設けている。また、事業所は短期利用共同生活介護（ショートステイ）の指定も受けていることから、希望に応じてショートステイを利用し、グループホームでの暮らしを体感してもらえるように努めている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は、利用者と家族のように暮らし、さまざまなことを教えていただくという姿勢を持ってケアにあたっている。訪問調査時も、利用者と職員がリビングで食事の下準備等を共に行うなど、日々の生活を支えあっている様子を確認できた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者が自分の思いや意向を表出するのが難しい場合は、職員が個々の表情や動きなどからサインを読み取り、問いかけなどを通して把握できるよう努めている。また、入居時には「バックグラウンドアセスメント」という様式を用いて、利用者の生活歴をていねいに拾い上げ、利用者の意向や思いを知るための手掛かりとしている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時には、担当ケアマネージャーからの情報や事前面談等を通じて利用者や家族の状況等を把握し、希望を反映した介護計画を作成していることが確認できた。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは6か月に1回を基本としている。家族等の意向は面会時や電話で聞き取り、サービス担当者会議においてこれまでの支援の評価を行った上で新たな介護計画が作成されていた。また、必要に応じて随時見直しも実施されている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>事業所は短期利用共同生活介護（ショートステイ）の指定を受けており、より地域のニーズに応えられるような体制を作っている。また、受診の付き添いは基本的に家族が行っているが、状況に応じて職員も同行するなど、柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の隣にある総合病院が協力医療機関となっている。多くの利用者のかかりつけ医でもあることから、受診はスムーズに行われている。また、かかりつけ薬局の職員からは薬を一包化してもらったり、感染症等へのアドバイス、運営推進会議への出席など、日常的に協力が得られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化等への対応については、隣接の本体施設（特別養護老人ホーム）等と連携しながら行っている。今後は利用者の状況も見ながら、グループホームにおける重度化・終末期ケアのあり方について、更に検討を進めていくことも期待される。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりのペースに合わせた声かけや対応を行っていた。利用者のケースファイルは定められた場所に保管しているほか、ファイルの背表紙には利用者の名前を大書せず、見えにくい場所に小さく記入するなどの配慮を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	第1ユニットでは自分から希望を伝えることができる利用者も多く、それに応じた支援を行っている。第2ユニットでも、利用者の表情や態度等から本人の希望等をくみ取るよう日々努めている。利用者の希望に応じ、家族と利用者が一緒に外出できるように支援したこともある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問調査時は、利用者が職員と共にリビングで食用菊の下ごしらえ等を行い、和やかな雰囲気であった。食事時は利用者同士の楽しそうな会話を職員がやさしく見守り、多くの笑顔が見られた。また、職員が声掛けをしなくても、利用者自らが自然に後片付けに参加していた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日、時間帯は特に決めておらず、その日に利用者の希望を聞きながら実施している。各利用者が、週に2回は必ず入浴できるように配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や好み、できることに応じた役割や趣味等を支援している。手芸や歌、調理の下ごしらえ、洗濯ものたたみ、草取りなど、それぞれのユニットで利用者の個性を活かした活動を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事の機会等を通じて、屋外に出かけている様子が事業所内に掲示された写真からも確認できた。また、利用者の様子が落ち着かない時などは、個別に外出して自宅近辺まででかけ、気持ちが落ち着くように支援している事例もある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関には鍵をかけておらず、職員が見守りで対応しているほか、玄関先にセンサー式のチャイムを設置することで利用者の動向把握にも努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害訓練は年2回実施している。2年前に実際に水害に遭ったことを受け、今年度は9月に水害対応の災害訓練を地域の全福祉施設や行政と連携して実施した。</p>		<p>今後も引き続き、夜間対応や火災・地震対応など、様々な状況を想定した災害訓練を実施していくことが期待される。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日の水分や食事の摂取状況は、個別に記録されている。献立は本体施設の栄養士が作成し、必要な食材も届けられている。かかりつけ医から食事に関わる指導があった場合は、調理方法（おかゆ食や小分けの食事にするなど）で工夫をしている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>事業所は各ユニットとも明るい造りとなっており、木製の家具や調度品が置かれるなど、家庭的な雰囲気である。壁には利用者の手芸作品や季節の花、行事の写真等が飾られるなど、利用者がくつろげるように配慮している。今後も継続して快適な生活空間づくりに努めていくことが期待される。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者が私物を自由に持ち込めるようになっており、実際に家具や家族の写真など、馴染みのものが居室に置かれていた。また、各居室には専用の洗面台が設置され、季節に応じて水道の温度も調節している。</p>		

は、重点項目。